

みんなが集える、 オアシス ハウス。

Vol.7
ECOさんが
帰る場所

HOME GROUND of
ECO LIFE

玄関を入るとすぐゆったりと包み込んでくれる開放的なリビングは、木々の「おかれり」が聞こえてくるような温かい空間。

エコハウスをシェアする、
という考え方。

「ミイラ取りがミイラになっちゃったの」と笑う道子さんは、愛媛出身。「一番下の子が、ちやうと行つてくると言つて富良野に行つたきり帰つてこないで様子を見に来たら、すごくいい所だね。遊びに来た親戚たちも気に入つて、みんなの別荘を作ろうつてことになったんです」

道子さんが住み込み管理役を担うその別荘は、やがて友人知人の宿泊も受け容れる紹介制のB&Bに。冬はことさら、ウインタースポーツを楽しみに来るお客さんで賑わうそうです。

内装にも家具にも無垢材をふんだんに使つた客間は、各部屋トイレと洗面完備。胸の空くような吹き抜け、山々を見晴らす連続窓、みんなで使える充実キッチン、眺望自慢の広々リビング……と、ダイナミックなデザインに満ちたエコホテル級のこの家は、10人以上の宿泊も可能。

こんな贅沢空間がご自宅とはうらやましい！と思うと同時に、コミュニティの大切さが叫ばれる今、道子さんのライフスタイルに、新しい生き方・住まい方の可能性を感じ、ハッとさせられました。

家と一緒に築いた絆。

「西條さんの会社は、富良野でステキな喫茶店をやっていた方に教わたったの。監理設計士の山田さんとは、『私がもつと若い娘だったらよかったね』と笑うくらい密に打ち合わせを重ねました(笑)。来年の春で建てて10年ですが、この家を自分の子どものように思つてくださるんだらうな、と感じるくらい、今も何かと気にしてくださるし、私も頼りにしています。西條さんと山田さんは、違う面を持つ名コンビ。頼もしいですよ」と、まるで愛しい甥っ子たちのことを語るような様子の道子さん。

施工業者と施主、という関係を遥かに超えた絆が、家を建てた後もずっと、築かれ続けているように感じました。
家を建てる、ということとは、住まいという題材を通して、自然環境や人間関係を、そして生き方そのものを、建築することなのかもしれません。

この記事の続きは、HPでお楽しみください。
<http://www.saijo-d.com>



- a. 無垢材の温もりに包まれる、ダイナミックな吹き抜けデザイン。
- b. 眺望自慢の共有キッチン付きリビング。
- c. 洗面・トイレ付きの個室は、国産無垢材+珪藻土壁のエコホテルクオリティ。
- d. 山々を眺めつつ料理できる共有キッチン。
- e. 日常を忘れさせてくれる、眺望広々テラス。
- f. ペントハウス並みの贅沢バスルーム空間。

お店や大型施設も、自然素材で。
店舗・集合住宅・公共施設などの大型建築物ほど、建材が及ぼす環境への影響も大。例えば、国産木材の利用を促進すると地域の林業が活性化し、木材資源の持続可能な循環が生まれて、結果的に山の自然や海の恵みも育まれる。建て主さんの意識は、地球環境につながっているのです。
エコデザイナー 西條 正幸

BiO+
監製バイオプラス西條デザイン
©企画・設計 有限会社 バイオプラス西條デザイン
本社:〒002-8081 札幌市北区百合が原4丁目8-1
Tel.011-774-8599 Fax.011-774-8581